

# アブサップ®液剤が‘ピオーネ’の果皮色及びアントシアニン含量に及ぼす影響

着色促進効果が最も得られるのは、着色始期頃に100倍に希釈したアブサップ液剤を処理した場合

## 1. 試験区の構成

供試品種：ピオーネ（13年生、H字型整枝短梢せん定樹）  
1樹に4試験区を設置、3樹反復

試験区	処理日	処理時期	濃度	方法
無処理区	—	—	—	7月4日袋掛け→収穫
果粒軟化期100倍区	7月9日	果粒軟化期（満開約40～45日後）	100倍	除袋→散布→再被覆
着色始期100倍区	7月17日	着色始期（満開約50日後）	100倍	除袋→散布→再被覆
着色始期200倍区	7月17日	着色始期（満開約50日後）	200倍	除袋→散布→再被覆

散布方法：処理濃度に希釈したアブサップ液剤を、ハンドスプレーを用いて約5 ml/1房となるように、果房に直接噴霧した。

## 2. 果実品質（2022年8月24日時点）

試験区	果房重 (g)	1粒重 (g)	粒数 (粒)	果皮色 <sup>2)</sup> (カラーチャート)	糖度 (° Brix)	酒石酸含量 (g/100ml)	果肉硬度 (kg)
無処理区	517	15.9a	32	5.9a	19.0 b	0.48	0.52
果粒軟化期100倍区 <sup>x)</sup>	551	17.8ab	32	7.3b	18.1ab	0.47	0.52
着色始期100倍区	533	17.1ab	31	7.6b	18.2ab	0.49	0.50
着色始期200倍区	557	17.8 b	30	7.4b	17.9a	0.51	0.52
有意差 <sup>y)</sup>	ns	*	ns	*	*	ns	ns

<sup>2)</sup> 農水省果樹試験場監修の赤・黒色系カラーチャートを使用

<sup>y)</sup> Tukeyの多重検定による（nsは有意差なし、\*は5%水準で有意差有りを示す、n=3）

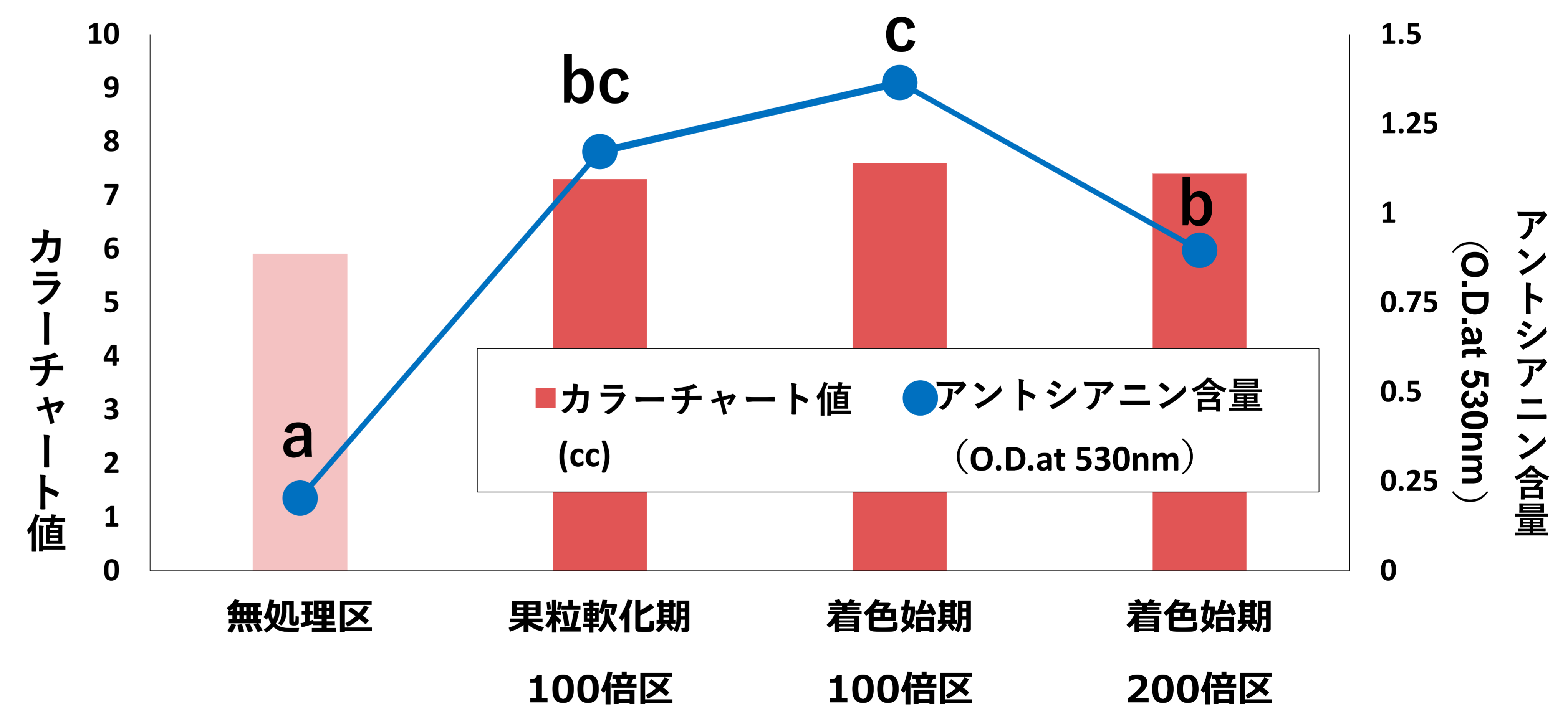
<sup>x)</sup> 登録外使用

## 3. 果房の様子



写真1 収穫日（2022年8月24日）における果房の様子

## 4. 着色促進程度



<sup>2)</sup> Tukeyの多重検定による（異符号間には5%水準で有意差あり）

図1 ABA処理が果皮色及びアントシアニン含量に与える影響

着色始期頃に100倍に希釈したアブサップ液剤を処理した試験区において、果皮の着色が最も促進された。